

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「毎日朝食を食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに対する肯定的回答の割合は順に96.7%、87.9%、96.7%で、いずれも高い結果となり、全国の平均を上回っている。各家庭の協力を仰ぎながら、これからも規則正しい生活の大切さを伝え、健康的な生活が送れるように指導していきたい。	
○「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合は82.5%で全国を3.2ポイント上回り、「将来の夢や目標をもっている」は91.2%で全国を11.4ポイント上回った。また、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」は81.4%で全国を8.9ポイント上回った。今後も自己肯定感や向上心を高められるように支援していきたい。	
○「人が困っているときは、進んで助けている」の肯定的回答は95.6%で全国を6.7ポイント上回り、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的回答は100%であった。相手を思いやり、正しく判断して行動しようとする素地ができていると思われる。「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答が84.6%で全国より16.5ポイント上回っていることから、引き続き、児童にとって学校生活が安心して学びの多い場であるよう、努力していきたい。	
○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか」では、「2時間以上」は全国とほぼ同数の25.3%であったが、「1時間以上2時間未満」は44.0%で全国を9.7ポイント上回った。本校の6年生の約7割は、毎日1時間以上の家庭学習の習慣が身に付いているといえる。授業で学習したことをさらに定着させ、学ぶ意欲を高められるよう、今後も家庭と連携して学力向上を目指していきたい。	
●「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答は53.9%で全国を5.3ポイント下回った。反面、「国語の勉強は大切だと思う」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の肯定的回答は9割を超え、「国語の内容がよくわかる」の肯定的回答は8割を超え、いずれも、全国を上回っている。授業の工夫・改善に努め、国語を楽しむ学びながら学力を高められるような指導を展開していきたい。	
○算数に関する質問に対しての肯定的回答は、いずれも全国を上回った。今後も、児童の算数に関する興味・関心を高めるような授業を展開していけるように、教材研究に励んでいく。	
●理科に関する質問に対しては、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」のみ全国を0.3ポイントわずかに下回った。それ以外は、すべての質問で全国を上回っている。「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」の肯定的回答は、79.2%で、全国を14.1ポイント上回っている。今後も、観察や実験を大切に、その結果から考察する授業を展開していきたい。	
○「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」の質問の肯定的回答は、90.2%で、全国を10.5ポイント上回った。今後も、児童の学習意欲を高め、学ぶ楽しさを味わいながら学力を高めていけるよう、教材研究や指導法の工夫に努めていきたい。	

宇都宮市立横川中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、保護者と連携をとりながら、家庭学習や自主学習への理解・協力を呼び掛けることで、基礎・基本の着実な定着や学力向上に向けた指導を行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目の肯定的に回答した児童の割合は82.5%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に本時のめあて、最後にまとめを板書して再確認をさせることで、児童一人一人が本時の学習内容を振り返り、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組めるようにしている。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の項目の肯定的割合は、81.4%である。
話し合い活動の充実	本校の研究主題「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成 ～ICTを活用して、言語活動「書くこと」の充実を目指す～」のもと、ペアや小グループ、学級全体での対話や話し合い活動で使う話し方の例を示すことで、各学年・各クラスの実態に応じた対話や話し合い活動を行うようにする。また、話し合い活動で得た考えや思い等を生かして書く場面や学び合いでの工夫を表現する場面を適宜、設定するようにする。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目の肯定的割合は、89.1%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」の質問に対しては、「当てはまる」と答えた児童の割合は、84.4%で全国より6.4ポイント上回っている。「書くこと」の平均正答率は54.5%で、全国の平均よりも6.0ポイント上回ったものの、60%を下回り、決して高い正答率とはいえない状況である。	国語科をはじめ、各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えを文章にまとめたり、発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける。	国語科の学習を中心に、学年の発達段階に応じて、各教科・領域の学習の中で、書く内容やテーマ、字数などを決めて、自分の意見や考えを文章にまとめたり、発表や説明をしたりする機会を計画的に設けるような指導・支援をすることで、児童一人一人の書くことへの苦手意識や抵抗感をなくすよう努めるとともに、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。
--	---	--